

水車小屋

小林 まもる

雪は薄墨に暮れて

川向こうの水車小屋で

米を搗く赤い母がいる

十二回忌を迎えても

大輪だいわの回るギィー音に包まれて

粉にまみれた母がいる

雪が縞模様に曲がりこみ

電線がブルルーンとたわみ

まだ帰らない母がいる

